

## デیلیー・ジーザス・ニュース #287

木曜日...指導と逮捕の日：

「別れの説教」を行う

イエスは父なる神への道であり、父なる神を明らかにする真理であり、命である

ヨハネ14.1-11

=====

1「わたしはあなたたちに命じる。心を騒がせるな。あなたたちは神を信じている。わたしも信じ続けなさい。

2わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。そうでなかったら、わたしがあなたがたのために場所を用意しに行くと、あなたがたに言ったのでしょうか。3わたしが行って、あなたがたのために場所を備えたら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに連れて行きます。わたしがいるところに、あなたがたも一緒にいるためです。

4「わたしの行く所への道はあなたがたが知っている。」

5トマスはイエスに言った。「主よ、どこへ行かれるのか、わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるのでしょうか。」

6イエスは答えて言われた。「わたし自身が道であり、真理であり、命なのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。7あなたがたはわたしを本当に知るようになったので、わたしの父をも知るようになります。今、あなたがたは父を知っており、また、父を確かに見ました。」

8フィリポは言いました。「主よ、わたしたちに父をお示してください。そうすれば、わたしたちには十分です。」

9イエスは答えられた。「フィリポよ、こんなに長い間あなたがたと一緒にいるのに、あなたはわたしのことを知っているのではないのでしょうか。わたしを本当に見て理解した者は、父をも見たのです。どうして『父を見せてくださいと言うのですか』。

10わたしが父におり、父がわたしにおられることを、あなたがたは信じないのか。わたしがあなたがたに言うことばは、わたし自身から出たものではない。父がわたしのうちに生きて、その

# THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

わざをしておられるのである。11 わたしはあなたがたに命じる。わたしが父におり、父がわたしにおられるとわたしが言うとき、わたしを信じ続けなさい。少なくとも、わざそのものの証拠によって信じ続けなさい。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルカ = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれる

## コンテキストダイジェスト

|           |                                      |
|-----------|--------------------------------------|
| 位置        | エルサレムの上の部屋                           |
| タイムライン    | 4月上旬 ( 39ヶ月目 )                       |
| イエスの生涯の文脈 | 第8段階: 受難週                            |
|           | D. 木曜日: 指導と逮捕の日                      |
|           | 「別れの説教」を行う                           |
| タイトル      | イエスは父なる神への道であり、父なる神を明らかにする真理であり、命である |

## コメント:

今日の朗読では、イエスはヨハネ14-17章からなる「別れの説教」を始めます。使徒たちと最後の晩餐を終えたばかりでした。そこでイエスは彼らの足を洗い、最後の過越祭を守り、ご自身の記念となる「主の晩餐」を制定されました。そして今、イエスは宣教活動全体を通して最も重要な真理を分かち合います。

イエスの告別説教における教えは、イエスの弟子にとって極めて重要です。なぜなら、それはイエスの死、復活、そして天の父のもとへの昇天の後、弟子たちがイエスとどのような関係を分かち合えるかを描いているからです。それはすべての信者に等しく当てはまります。

これまで、弟子たちはイエスと血肉の関係をもっていました。そのため、イエスは彼らの外側、つまり空間と時間によって限定された関係の中に留まっていました。しかし、イエスは肉体の束縛から解放された、新たな霊的な体で復活しました。さらに、昇天後、イエスと父なる神は聖霊を遣わし、イエスを信じるすべての者の内に宿らせました。それまで肉体的で外的な関係であったものが、聖霊を通してイエスとの霊的な内在的な関係へと変化したのです。

イエスは、弟子たちを、同じイエスとの関係性についてすべてを変えることになるこの大きな変化に備えていました。

さらに、イエスが弟子たちに説かれた「新しい」関係は、ペンテコステ以降、イエスを信じるすべての人にとっての標準となるでしょう。つまり、あなたと私にとってです。ですから、イエスは使徒たちにこの貴重な言葉を語ったとき、私たちのような未来の信者すべてのことを考えていたのです。

別れの説教は、イエスが天に戻られた後に福音を聞いてイエスを信じる私たちのような人々にとって、イエスを愛し、知り、従うことが何を意味するかについてのイエスの根本的な教えです。

一つ明確にしておきましょう。使徒たち、そしてイエスが地上で、肉と血をもって生きていた時代にイエスを信じたすべての弟子たちは、歴史上二度と繰り返されることのない、特異な状況に置かれました。彼らはイエスを二つの段階に分けて経験しました。一つは、地上での生活における限定的で外的な肉と血の交わりであり、もう一つは、ペンテコステ以降、イエスとの霊的な、内在的で完全な一体感でした。

ペンテコステ後のイエスの認識は永続的なものであり、他のすべての信者と同様でした。ペンテコステ以前の認識は一時的、過渡的であり、肉体を持ってイエスを知った人々に限られていました。それはすべて、ペンテコステ後の主の認識への準備でした。

イエスは教えを始めました。弟子たちに、これまでヤハウェを信じてきたのと同じように、イエスを信じるように命じました。イエスが三位一体の一員としてヤハウェであるからこそ、そうされたのです。使徒たちには、イエスが三位一体の神として父とどれほど完全に一体であるかがまだ分かっていませんでした。使徒たちがそれを理解するには、復活と聖霊の教えの働きによる時間が必要でした。しかし、これらの節でイエスは父との完全な一体性を信じるように命じました。それは真実であり、彼らがこれまで信じてきた神の本質にとって不可欠だったからです。

三位一体はキリスト教徒にとって、選択的な教義ではありません。私たちを唯一無二の存在にする、私たちの信仰の根底にある真理です。これは、イエスと父なる神にとって、三位一体が選択的な概念ではなかったからです。三位一体は、神としての不可分で創造されていない存在の永遠

の現実であり、今もなおそうなのです。それは福音書の最初の言葉です。「初めに言葉があった。言葉は神（父なる神）と共にあった。言葉は神であった。」

応用：

告別説教の驚くべき点は、イエスが昇天した後、弟子たちが肉体を持っていた時よりも聖霊を通してイエスとより良い関係を築いたことを描写している点です。

あなたや私がイエスの地上での宣教の時代へタイムスリップし、使徒たちの働きを目の当たりにしたいと切望するとしても、イエスも使徒たちも「今の方が優れている」と言うでしょう。使徒たち自身も「古い」時代に戻りたくはありませんでした。イエスを肉によってのみ知るよりも、御霊によって私たちの内にイエスを生きていただく方がはるかに優れています。私たちは本当に祝福されています。

今日の聖書箇所の中に、父と子に関する真理がいくつか見つかりますか。リストを作ってみてください。

このテキストの中に、イエスと私たちとの関係に関する真理がいくつか見つかりますか。

これらの中で、あなたにとって最も重要なものはどれですか？それを他の人とどのように共有できますか？